



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 31 号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎ 聖書からのメッセージ：「パンを食べる」エレミヤ
- ◎ 聖書と日本 「目には目を、歯には歯を」
- ◎ イエス・キリストに出会う 「イエスと金持ちの青年」
- ◎ キリストを信じた体験談 「冷凍庫」by S
- ◎ 聖書を信じた有名人のことば： ロバート・デイック・ウイルソン
- ◎ 聖書贈呈

<聖書からのメッセージ >

「パンを食べる」 by エレミヤ

本日は、「パンを食べる」という題でメッセージしたいと思います。

テキストは以下です。

ヨハネ6:51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」

このテキストを見てわかるように、イエス・キリストは御自分を「生けるパン」であると語っています。このことを考えてみたいと思うのです。パンは西洋の国々などでは主食です。それは日本では米やご飯に相当します。だから、キリストが自分のことをパンであると語るとき、それは私たちの生活や肉体

の維持に必須の主食、メインの食べ物に関して語っているのであることを知しましょう。これなくしては生きていけない必須の食べ物、食料の話をキリストは語っているのです。当たり前のことですが、私たちが肉体的に元気な生活をしようとするとき、まず主食であるパンやご飯をきちんと食べることは必須です。それを怠り、食べるものを食べないと体が弱ったり、場合によっては体がふらふらして倒れてしまうこともあります。

私がまだ小学生だったとき、学校でよく朝礼がありました。広い校庭に全校の児童が集まり、校長先生のお話を拝聴するのです。多くの子供が緊張して直立不動でお話を静かに聴いているのですが、しばらくすると異変が起きます。朝礼の長い話が続く中で毎週のようにバタバタと倒れる子供がいるのです。「一体何故倒れたりするのだろうか？」割と元気な子供だった私には不思議でしたが、あるとき、先生の注意で何か原因がわかったように思いました。先生はこういわれたのです。

「パンを食べる」エレミヤ

「みな、朝礼で倒れないように朝ごはんをしっかり食べてきなさい」このことばを聞いて、「そうかご飯を食べないと倒れるのだ」と子供心にも私は納得しました。ことほどさようにきちんとパンやご飯を食べていかないと一日の途中で弱ったり、倒れてしまうものなのです。パンは私たちの命や力には必須のものなのです。

さて、キリストは多くのたとえを通して語られたことが聖書には書かれています。ここでいうパンということばにも文字通りのパンというより、何かたとえが使われているようです。ここでキリストがいわれているパンとは具体的に何をさすのでしょうか？考えてみましょう。以下のことばがヒントになるかもしれません。

ヨハネ 6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。

ここに「わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」と書かれているように、いのちを与えるパンとは具体的にはキリストのことばをさすことがわかるのです。

そしてそのパンに関連してキリストが「ことばは、霊であり、またいのちです。」として霊やいのちに関して語っていることをも理解します。キリストが語っているのは、お腹や胃袋に入るパンではなく、私たちの霊や心に命を与えるパンに関して語っているのです。

勿論肉体を強めるパンやご飯も私たちには大事なのですが、でもここで真にキリストが話題にしているのは、胃袋を満たすパンでなく、私たちの内側や、魂を満たすパンに関して語っているのです。

人は確かに肉体を持ち、胃袋を持ち、食べたり、飲んだりする存在です。しかし、

それだけの存在ではなく、人は心を持ち、魂を持つ存在です。そして、肉体の胃袋もお腹が空いて空腹になりますが、同じ意味あいで心が空腹になったり、魂が空虚になる、ということもあるのです。身体は3食食べて健康だが、しかし、心が空虚で、何の力もわかない、生きていく気にもならない、ということもあり得るのです。繰り返しますが、私たちは自分の肉体の胃袋も満たす必要がありますが、しかしそれとともに自分の心の空虚さを満たすパンがなければ、生きていけない存在なのです。

そして、私たちの内側を満たすパンとして、キリストは「またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」と語ります。すなわちパンであるキリストのことばこそ、私たちの内側の空虚さを満たし、力を与えるパンであることを語るのです。

そうかな？と思うかもしれませんが、このことは事実です。他でもない私もキリストのことばを受入れ、信じ、このパンを食べることにより、内側に命を与えられ、人生の歩みが一変しました。私はキリストを信じる前は、内向的な性格で、人にされた意地悪や嫌な事などがなかなか忘れられず、いつまでも根に持っているようなそんな割と根暗な性格でした。その時はそれでも自分は普通だと、思っていたのですが、今思い返すと根暗です。でも、ある日、キリストのことばを聞き、そのパンを食べ、そのことばを信じることにより、心の内側が一変しました。なんと表現したらよいのか、わかりませんが、キリストを信じたとき、内側から新しい命が湧き出てくるような心持になり、心が明るくなり、感謝の心がわいてきました。また、人から悪いことをされてもその人を許したり、その人のために祈ったりすることもできるようになったのです。以前の自分から考えたら、すごい変化です。確かにキリストのパン、ことばを受入れ、食べたことは私の歩みを一変させたのです。

「パンを食べる」エレミヤ

キリストのことばを受入れ、信じたとき、内側から神の命が沸き起こるように変わってきたのです。

このようにキリストのパンを食べることはお勧めできることなのです。しかし、一般の人にとって、このパンを食べる、キリストのことばを受入れることには抵抗があるだろうこともまた事実だと私は知っています。たとえば、キリストはこのパンを食べることに關して弟子たちにこういいました。

ヨハネ6:53 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。」

このようにあたかも人肉を食べる、人の血をドラキュラの様に飲む、と誤解されかねないような表現でキリストは語ったのです。そのため、これを聞いた弟子たちは憤慨しました。以下のようにです。

ヨハネ 6:60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」

このようにキリストのことばに憤慨して離れ去ってしまった弟子たちも何人もいたのです。いったい何故キリストはこのように誤解されかねない表現を用いて、パンを食べることに關して語ったのでしょうか？こう思えます。このように表現することにより、キリストは、キリストのからだ、すなわちパンであるキリストのことばを受け入れる、食べることに關する困難さを語っているように思えるのです。人肉を食べると同じような意味あい、キリストのことばを受入れ、食べる、ということは人にとって、抵抗があり、困難のあることがらなのです。たとえば、聖書はキリストが十字架で死んだこと、葬られたことを語ります。そしてその3日後にキリストが

復活した、生き返ったことを語るのです。このことば、復活したとのことばは、多くの人にとり、ハードルが高く、なかなか受入れられないことがらです。まさに人肉を食べるように難しいことなのです。しかし、そうであってもこれが神の方法であり、救いのために用意された方法なのです。パウロはこのことの困難を表現して以下の様に語ります。

1コリント1:18 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

このようなことば、十字架にかかり、その後復活したとの話が人には愚かに聞こえることを彼はよく知っていたのです。でもこれが神が選ばれた方法なのです。一見愚かに見える話であっても、しかしそれでも神のことばを真実であるとあえて認め、また、キリストのことばを真実として食べ、受入れる人を神は救おう、永遠の命を与えようとされている、このことも事実なのです。

「だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。」

そうです、誰でもあえてこのパンを食べ、キリストのことばを受け入れる人が救いを受けます。このことを知りましょう。



いのちのパン

聖書と日本 「目には目を、歯には歯を」

聖書はあまり日本人には馴染みがないものかもしれませんが、実はそうでもないのです。

「目には目を、歯には歯を」という言葉があります。自分が害を受けたら、それと同じように復讐することのたとえです。一般的に復讐、報復のたとえとして用いられるので恐ろしい言葉に感じます。これはハムラビ法典にもありますが、聖書にも記されている言葉です。旧約聖書の出エジプト記 21 : 24

「目には目、歯には歯、手には手。足には足。」とあります。同じくレビ記 24 : 19 ~ 20 にも「もし人がその隣人に傷を負わせるなら、その人は自分がしたと同じようにされなければならない。骨折には骨折。目には目。歯には歯。人に傷を負わせたように人は自分もそうされなければならない。」とあります。

「目には目を」という言葉は恐ろしい復讐の言葉のように思えますが、本来の意味は過度の報復を避けるための戒めでした。目の被害に対して相手の命を奪うような過度の報復がないように、加害者各自に同じ被害の償いをさせたのです。やられたら倍にして仕返しするなど、とんでもないことなのです。

そして新約聖書ではイエスは、次のように言われています。

マタイ 5 : 38 ~ 44

『目には目で、歯には歯で』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。

あなたに一ミリオン行けと強いる者とは、二ミリオン行きなさい。 ※(1ミリオンは1500m)

求める者には与え、借りようとする者は断らないようにしなさい。

『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りな

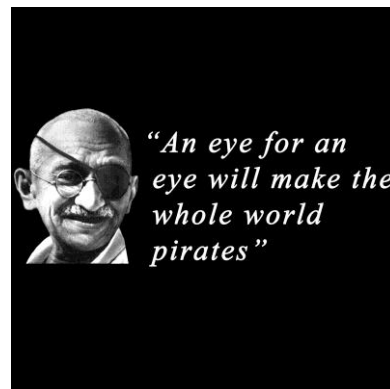
さい。

イエスは、被害を受けたとしても、「目には目を」という報復をせず、その人に良いことをするよう言われます。それどころか、自分に対して悪いことをする敵に対して、愛し祈りなさいと言われていたのです。敵を愛するという常識では考えられないことをイエスは命じられます。そしてイエス自身が実際に手本を示されました。ルカ 23 章では十字架にかかれたイエスのことが記されています。何の罪もないイエスが、ユダヤ人指導者の妬みから死刑を宣告され、十字架で苦しみを受けていた時、多くの人々があざ笑い、罵りました。

ルカ 23 : 34

そのとき、イエスはこういわれた。「父よ。彼らをお許しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

このようにイエスは祈られたのです。神の御子であるイエスが、十字架にかかれたのは私たちの為でした。イエスは多くの問題、罪を持ち滅んでしまう私たちの身替わりとして苦しみを受けられたのです。しかしそれを理解できず、人々はイエスをあざけり苦しめました。それでもイエスは赦し、愛し、十字架上で祈ってくださったのです。そして今の時代においても死からよみがえられたイエスは、私達を愛し祈ってくださっています。



目には目を

イエス・キリストに出会う「イエスと金持ちの青年」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。その当時の人々はイエスと会い、自分の目で確かめることができました。そして今は聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。主イエスはどのような方なのでしょう？マルコ10章ではイエスのもとに走り寄ってきた一人の青年のことが記されています。

マルコ10：17～23

イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「貴い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいでしょうか。」

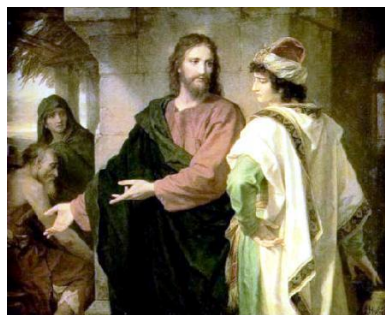
イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』というのですか。尊い方は、神おひとりのほかに、だれもありません。戒めはあなたもよく知っているはずです。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え』。」

すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのことをみな、小さい時から守っております。」

イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

この青年はイエスに永遠のいのちについて真剣に尋ねました。品行方正な青年だったので、神の戒めも、すべて守っていると答えました。イエスは青年を、じっと見つめられました。イエスは青年のことを慈しみ、大切に思われています。イエスは、私達のことをすべて知っておられます。青年がどのような環境で生まれ育ち、どんな人かをご存知でした。そして彼に欠けていることが何か知っておられました。では青年に欠けていると

ころはなんでしょう？青年は、お金持ちで品行方正、良い評判があったのでしょうか。お金持ちというのは単に金銭的なことだけではなく、才能や地位や評判というお金以外のことも含まれています。青年は、自分は人の前にも神様の前にも、とても良い生き方をしていると思っていたのです。でも本当にそうでしょうか？マタイ19章で同じ青年のことが記されており、そこには「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という戒めも記されています。そして青年は戒めをすべて行っている、とイエスに答えています。しかし、よく知らない他人を自分自身のように愛するという戒めを完全に行うことは難しいことではないでしょうか。実際の所、自力で神の戒めを完全に守ることは不可能です。できていると思うのは、大きな勘違いだったのです。青年はその事がわかっていませんでした。自分の持ち物を売り払うというのは、自分の力で何事もできるという勘違いの生き方をやめることです。青年を慈しんだイエスは自分の財産や能力に頼らないで、わたしについて来なさい、そして永遠のいのちを得なさいと言われたのです。しかし青年は悲しみながら、イエスの元を立ち去りました。どうしても能力ある自分の力、財力を捨てたくなかったのです。青年はイエスに出会い慈しみを受けたにもかかわらず、永遠のいのちを得る機会を自ら捨ててしまったのでした……。今でもイエス様は私達を愛して、わたしについて来なさいと語りかけてくださっています。そしてそれにどう答えるかは各人に任されているのです。



金持ちの青年とキリスト

キリストを信じた体験談「冷凍庫」 by S

ある方から聞いた証です。その方はサラリーマンで食品会社に勤めている方です。ある平日、その日は朝から胸騒ぎがしたそうです。デスクワークをしながらも、妙に落ち着かない気分になってしまったそうですが、まもなく神様からの示しがあり、訳は分からないながらも、お祈りに導かれたそうです。しばらくして一人の男性社員が突然、「大変だあ！」と、言って、社内に入ってきたそうです。「何が起きたんですか？」と聞いたら、「業務用の冷凍庫に人が閉じ込められている。〇〇君(証をされた方)、すぐに助けに来てくれ」と、言われて、直ちに現場に向かったそうです。

数年前に聞いたことなので詳細は覚えていないのですが、その後すぐに何人かの人と協力して、何とか冷凍庫のドアを開けて、無事、救出することができたそうです。そしてその時に、「ああ、朝、妙に胸騒ぎがして落ち着かなかったのは、このことだったんだ。無事に助かって良かった。」ということでした。そして、「神様が自分を通して祈らせてくださって、助けてくださっ

たんだあ。本当に良かった。」と、おっしゃっていました。

証の最後に、その方もおっしゃっていたことですし、私もその証を聞いた時に思ったことですが、神様は必要に応じて、個々のクリスチャンを通して前もって危険を教えてくださいたり、はたまたそのことを回避するために、場合によってはお祈りにも導いてくださったりして助けてくださるお方なんだあということを理解しました。

生きていると、たしかに色々な出来事がありますが、私たちは、ほんの一部のことしか知りませんし、自分たちの身の周りに起きていることに関しても、なぜ、そういうことが起きるのか？なんてことについては、あまり分かっていません。



神により祈らされる

キリストを信じた体験談「冷凍庫」 by S

もちろん自分たちの未来に何が起きるかなんてことは、もっと分かりません。でも、たとえ私たちが何も分からなくても、すべてを御存知の神様がその時々に見合った必要な導きや助けを与えてくださるんだなあと思いました。

クリスチャンがよく賛美する歌の中に、「御手の中で」というタイトルのものがありますが、すべては神様の御手の中で起きていることなので、しかも、個々の人の先々をすべてご存知の神様が導いておられることなので、あれこれ色々と考えたり、思い煩ったり、心配したりする必要は全く無いんだなあと思いました。

たとえ心配したり、煩ったりすることがあったとしても、すべてをご存知で心配してくださる神様にお任せすれば万事OKなんだ！と、思いました。

その方から証を聞かせていただいて、大分年数を経っていますが、とても印象深い証だったのでお話をさせていただきました。

すでにクリスチャンの方も、また、そうでない方も、何かの助けになったり、わずかでもお役に立てたらなあと思います。最後に御言葉を読んで、証を終わりにしたいと思います。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

(新約聖書[新改訳]:第一ペテロの手紙5章7節)



冷凍庫

聖書に関する有名人のことは :

ロバート・デイク・ウイルソン 言語学者:45以上の言語と方言に通じていた。



全生涯にわたる旧約聖書の研究の後で彼はこう結論づけた:

「45年にわたる聖書の研究のあと、私はこのような結論を加えることができると思う。その研究は私自身を旧約聖書に対する確固たる確信に導き、(聖書に書かれている)イスラエルの人々の歴史の信憑性を確信させるものであった。」

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント!

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか?少し、聖書に興味をわいてきましたでしょうか?このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか?ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>